

令和5年度 第1回草津市総合教育会議 会議録（要旨）

■日時

令和5年9月14日（木）午後3時00分から午後5時00分まで

■場所

草津市役所8階 大会議室

■次第

1. 開会
2. 議題
(1) 学校の働き方改革について
3. 閉会

■出席委員

松嶋委員、小辻委員、我孫子委員、森委員

■出席理事者

橋川市長、藤田教育長

■事務局出席者

総合政策部	金森部長、山本副部長（総括）
子ども未来部	黒川部長、荒川副部長（総括）
幼児課	小川課長
子ども・若者政策課長	中瀬課長
発達支援センター所長	田附所長
教育委員会事務局	増田部長、菊池理事（学校教育担当）、岸本副部長（総括）、二井副部長（図書館担当）兼図書館長、上原副部長（学校教育担当）兼学校教育課長、田中副部長（スポーツ担当）
学校教育課	西田課長補佐
教育総務課	吉田課長、永田課長補佐

1. 開会

- 開会に当たり、市長より挨拶

2. 議題

学校の働き方改革について

【事務局説明】

(平成29年度に策定された前プランの評価について説明)

【質疑応答・意見交換】

- 森委員

学生ボランティアはどのくらいの人数が登録されているのか。

また、地域住民によるボランティア活動のところで、何か課題について対策があれば教えてほしい。

- ・教育部上原副部長

現在、40名程度の学生に登録いただいている。

南笠東小学校では、PTA、コミュニティ・スクール、学校長の三者連名で募集されたところ、現在120名程度がボランティアに登録していただいている。その120名の内の半数以上がPTAだけではなく、卒業生の保護者、地域の方がボランティア活動に参加していただいていると聞いている。そういう例を少しでも収集して、幅広く周知していきたいと考えている。

- 森委員

学生ボランティアの小学校と中学校の比率を教えてほしい。

- ・教育部上原副部長

時間数については、各校13時間の確保を基本としており、小中同じである。

- 市長

小学校希望が20人で、中学校希望が20人になるか、そういったデータはあるか。

- ・教育部上原副部長

小学校が30人、中学校が10人である。

- 市長

今、小中学校合わせて20校あるが、まんべんなく派遣をしているという認識でよいか。

- ・教育部上原副部長

学校間の格差があり、学校側の希望が多くある所と、少ない学校があるのが現状である。

●松嶋委員

たび丸ネットの活用促進について、活用の事例が少なかったのは先生方がどの点が使いにくかったからなのか。

また、業務環境改善のところの、データや分析結果があれば教えてほしい。

・教育部上原副部長

たび丸ネットの活用促進については、パブリックに入れてアクセスしづらい点が考えられる。フォルダを分けて検索しやすいように工夫はしているが、そこにアクセスする時間がかかる等で活用しにくいというのが現状である。

草津市の小学校の45時間以上の超勤のパーセントは、滋賀県と比べると約7%高い。中学校は滋賀県と比べても同じ位のパーセントである。全国と比べると小学校、中学校共に低い。

●松嶋委員

有給休暇の日数は。

・教育部上原副部長

今、手持ちにデータがございません。

●小辻委員

学生ボランティアについてお伺いしたい。教育委員会として高校生のボランティア募集など検討いただけると良いと思うが、どのように考えているか。

また、年次有給休暇の取得は、夏休みや冬休みの時期に取得されているのか、弾力的に取得されているのか。

・教育部上原副部長

高校生のボランティアは現時点では考えていないが、地域の方、保護者、卒業された方については広げる予定はある。

年次有給休暇は、できるだけまとめ取りで夏季休暇中、冬季休暇中、春季休暇中の子どもがいない時を推奨しているため、まんべんなく休日を取れているというよりは、集中期間を設けて取っていただいているのが現状である。

●小辻委員

高校生をどのようにしていくのか課題だと思う。実際に中学校を離れた時点で、教育委員会とのつながりは高校生になると離れてしまうところもあると思うので、どのような形があるのか今後考えていただけたら嬉しい。

年次有給休暇については、勿論ある程度の教職員の方々は休暇の時期に取るものだという前提で教員になられていると思うが、それぞれ家庭の事情もあると思うので、出来る限り、特に管理職の方は配慮していただけるとありがたいと思う。

●我孫子委員

部活動のところ、体育協会の人材バンクの募集はどのようにされていたのかと、マッチングはスムーズにできたのかを教えてください。また、運動部以外で指導者の方が不足しているところは無かったのかを教えてください。

・教育部上原副部長

実際なかなかマッチングできていないのが現状である。学校の希望される種目と登録していただいている種目の違いがあり、今、指導員各校2名配置計12名配置しているが、その中で今10名が登録していただいた方から派遣をしており、6名の指導支援員についても、各学校で見つけていただいた方を体育協会の人材バンクに登録していただいているのが現状で、なかなか競技種目、希望種目と登録者とのマッチングが難しい。また、ブラスバンド部については、現在指導員と支援員はいない。

●我孫子委員

運動部と同じで文化部に対しても指導して欲しいというような声は特に無かったということか。

・教育部上原副部長

希望は現状無い。特にブラスバンドなど専門性のある指導員の方を求めているというよりか、運動部の種目で希望されている学校が多いのが現状である。

●市長

部活動で、国が地域移行を打ち出してきている。国が言っているものに対する現状の取組はどのレベルにあるのか。16ページを見ると○になっているが、スポーツの種目によってはマッチングがなかなかできていないのに本当に○でいいのかと思うが、実際どのスポーツ種目の要望があるが、ここまでしか対応できていないのか具体的に教えてください。また、スポーツは12団体といていたが、12団体で何人登録されているか等、もう少し具体的に教えてください。

・教育部上原副部長

評価に関しては、働き方改革の視点で評価をしており、地域移行についてはあまり考慮していない。

登録団体の12団体123名の内訳は、柔道協会1名、ゲートボール協会3名、グランドゴルフ協会3名、空手協会13名、テニス協会3名というように、部活動にない協会の方もおられる。部活動にある団体の内訳は、バレーボール協会11名、ソフトボール協会27名、バスケットボール協会16名、ソフトテニス協会5名の方がおられる。

人材バンクに登録している所から紹介を得てというよりか、学校がそれぞれ見つけて、そこに登録して、そこから来ていただいているのが現状のため、学校の校長が見つけてきて人材バンクに登録して派遣するというような形なので、スムーズなマッチングには至って

いないと考えている。

●教育長

中学校の部活動の負担が非常に先生方に多いと思っている。マッチングの難しさはどんな点にあるか。中学校にとっては大きな課題でもあるので、その辺りは何か掴んでおられるか。

・教育部上原副部長

マッチングの難しさとして、時間帯がある。登録していただいている方のお仕事の関係、休日の過ごし方があるので、学校が希望されるのは放課後の1時間から2時間程度、休日の土日どちらかなので、時間帯の難しさがある。また、子どもに接していただいている指導員ということで、先生方の指導の方針と指導員の指導の方針が違っては困るので、継続的な指導の観点で方針について打ち合わせもしっかりして、継続的な指導につなげることが難しいのかなと思う。

●市長

国の部活の地域移行の中には文化部活動は入っていないのか。

・教育部上原副部長

入っている。

●市長

入っているけれど、手つかずの状態であるということか。

・教育部上原副部長

運動部12名だけと言いましたが、1名文化部で吹奏楽部がおられる。

●市長

吹奏楽だけではなく、いろいろな文化部活動がある。そこはまた拡大していく必要があるという認識か。

・教育部上原副部長

はい。

【事務局説明】

(新プランについて説明)

【質疑応答・意見交換】

●小辻委員

部活動の見直しについて、生徒がどのような回答なのか内訳を教えてください。

・教育部上原副部長

部活動に加入している子どもが約60%。その中での活動の停止期間を聞いているので、部活動に入っていない子は活動が長い、短いなどは答えていない。

●小辻委員

部活によつての差はあるのか。

・教育部上原副部長

活動の種目での内訳は、今は無い。

●松嶋委員

目黒区の学校での生徒側からの意見、感想を教えてほしい。

また、超過勤務の割合を何%まで減少させるか等、詳細な目標設定があれば教えてほしい。

・教育部上原副部長

放課後の時間が増えて習い事の前に自由時間が取れるようになってよかつたであるとか、給食が10分遅くなってしまうことから、お腹が空くのではないのかと心配して聞きましたところ、子どもは長休みを確保したい、給食は遅くなくてもいいので、休み時間は確保して欲しいという声があつたようなので、目黒区はしっかり長休みは取られている。保護者の方からも給食が遅くなることで朝ごはんをしっかりと食べさせるようになったという声が聞かれた。

目標設定については、予算も伴うため、出来ることから優先順位をつけながら進めていきたいと考えている。

●松嶋委員

超過勤務の実態はどの業務で月80時間の内、超過勤務が増えているのか分析は終えているか。

・教育部上原副部長

内容としては、授業準備であるとか、成績つけ、丸つけであるとか、学校事務であるとか、超過勤務80時間以上の方がこういうので何時間使っているという詳しい調査は行っていないが、感覚的には授業準備、そして評価、丸つけ、採点等にかかっているのが現状かなと思う。

●森委員

児童の集中力が高まっている間に、40分の5時間は凄く魅力的なプランだと思うが、一方で中学校が50分授業で6年生から中学校への円滑な接続に向けて何か対策をしているのかと、目黒区では、中学校にスムーズに対応できたのか教えてほしい。

また、通知表を3回から2回へというのは小学校か。家庭訪問というのは小学校か。チー

ム担任制というのも小学校か。

・教育部上原副部長

対策については、6年生の3学期は少し時間を工夫しながら40分を徐々に長くするか、また活動の午後は、考えているのは40分だが、学びの時間を活用して学習タイムの20分と6時間目を合わせると60分の授業になるので、そういうところも活用しながら、スムーズな中学校への移行を考えている。

チーム担任制については、小中で可能だと考えている。通知表については、受験等もあるので小学校のみだが、家庭訪問についても小中で実施できるものと考えている。

●森委員

いつ頃から始めようと考えているか。

・教育部上原副部長

今プランを出したが、子どもが2時20分に帰るとなると、学童保育等との調整も必要になるので、来年度4月からとは考えていない。来年度は1か月程度、期間を限定して実施し、課題等を洗い出して出てきたものを解消して、令和7年度以降に全面実施したいと考えている。各課との調整、保護者、コミュニティ・スクール、協議会委員の理解が必要なので、できるだけ丁寧に進めていきたいと思っている。

●森委員

チーム担任制が小学校と思っていたので、中学校も、となると自分のクラスが週に少ない教科の先生もいらっしゃる中で、その中でチーム担任制がいいのかどうかというのは、現場の声をよく聞いて検討していただけたらと思う。

●我孫子委員

部活動のアンケートのところで、平日と休日の活動時間がだいたいどの学校も一緒なのかと、それぞれの回答について何か理由などは聞いているか。

・教育部上原副部長

理由は聞いている。部活動の時間は、授業終了後から下校時間までのため学校によって差はないと思う。

・学校教育課

夏の時期と冬の時期では違うが、ガイドラインとしては平日2時間まで、休日3時間までとしており、ただ平日2時間取れる時はあまりなく、1時間30分、もしくは1時間程度と聞いている。

●小辻委員

家庭訪問を廃止する、見直しするという話したが、その中で住環境や家庭環境やヤングケ

アラー等なかなか把握しにくいところもあると思うが、そのあたりの実態の把握などをどのように考えておられるのか、その代わりは考えているのか。チーム担任制で、どのくらい先生方の負担が減ると予想されているのか、それとも変わらないのか。

・教育部上原副部長

家庭訪問については、ヤングケアラーの問題で発見するということにもつながると思うが、子どもの住環境や家庭環境については日頃の子どもたちの服装であったり、持ち物、言動から把握することに努めたいと考えている。また、どれぐらいの負担軽減につながるか、数字的には、これをしたらこうなるというのはなかなかどうというものではないと思うので、総合的に縮減して先生方のやりがいをしっかりと把握していきたいと思う。

●小辻委員

チーム担任制は、実際どれだけ効率化しているか分からないが、先生方にいろいろな児童生徒を見ていただいて先生方の力量も上げていただくという所も含めて考えておられるということでしょうか。

・教育部上原副部長

はい。

●市長

日課表の見直しで、ゆとりの放課後ということで早く終わるということが先生方、子どもにとってもいい面があると思うが、それに対して何か課題はないのか。

また、学習タイムというのは、どんな形でこれを使われるのか。

・教育部上原副部長

課題については、来年度見させていただいて、課題を洗い出して、翌年度からの全実施をめざしたいと思っている。

学習タイムについては、今までの基礎基本の定着を図るものと考えている。教育課程に位置付けて先生の指導の下、行いたい。例えば今やっている、朝の読書タイムを昼読であったり、基礎基本のドリル漢字学習、計算学習等をするというのが学習タイムなので、しっかりと教育課程に位置付けて評価も行い、指導者も居る、教材も有るというような環境で学習タイムを実施していきたいと思っている。

●市長

学習タイムのカリキュラムを作る必要があるということか。

・教育部上原副部長

はい。6時間目と合わせて60分の授業も考えられる。

●松嶋委員

現状を変えたいということで、このような新しい取組を進めていくという点については、何もしないのが一番良くない。新しい取組をした上で、実際に現場の先生方の意見や、児童生徒の意見等を情報収集した上で、適宜プランを見直し、上手くいっているのか、しっかりと確認しながら取り組んでいただきたい。

●小辻委員

「多様な人材の活用と人材確保の体制づくり」のところに、人材育成も織り込んでいただきたい。

難しいとは思いますが、SSWの常駐をしていただきたい。SSWは大学生が現場に実習に行くが、なかなか実習現場が無いところもあるため、実習のサポート、受け入れ等をしていただくとありがたい。実際にSSWをされている方から、受け入れるのも大変ということを知っている。就職する時にすぐにSSWというのは難しいと思うが、大学生にも学べる場所を作っていただくとありがたい。

スクールサポートスタッフ等、支援員の増員のところで、免許不要となっているが、その中で免許は不要としても、どの様なところで免許の代わりに担保していくのか、検討していただきたい。

●森委員

働き方改革は、自分たちの常識、当たり前をやってきたことを一度疑って、本当に教師がやらなければいけない仕事なのか、何か手放せることは無いかを考えなければ進んでいかないと思う。子どもと向き合う時間を生み出すために、意識改革をしていくのが簡単なようで、非常に難しい。

支援スタッフの配置は、現場ではできないため、現場の声を聞き、こうすれば子どもたちや先生のためになるのではないかという視点を教育委員会は常に持ち、挑戦をして行かなければならない。また自分自身もその視点を持っておかないといけないと思う。

「多様な人材の活用等と人材確保の体制づくりについて」は是非、実現してほしい。

●我孫子委員

部活動について、試合で100%の力を出そうと思うと、シーズンオフにしっかり練習を積み、シーズン中の練習時間を短くして、リフレッシュした状態で試合に臨むべきなので、逆の方が良いと思った。

冬期の部活を停止することに賛成の生徒が多いということだったが、その理由を知りたかった。先生の中でも部活の指導がしたくて先生になられた方もおられるので、部活の指導をしたいか、したくないか等、もう少し掘り下げてアンケートを先生方にとっていただきたい。

もし地域移行するのであれば、学校以外のところでどの様に協力体制を作っていくのかが一番問題になるのではないかと思います。

トレーニングという点だけでは、どの競技にも共通しているトレーニングがあるかもしれないので、例えば5日間ある内の1日は、どの部活も共通して同じトレーニングをすれば、数人の先生方だけで皆を見れば良いので、先生方の負担が減らせる。また、そこを外部の人に任せるといったのも一つの手ではないかと思った。

●教育長

働き方改革をせずに、子どもたちにいろんな力をつけるということは非常に難しいと思います、今回の総合教育会議の重点テーマとして取り上げさせていただいた。

何よりも、実際に教育を受ける子どもたちの気持ちを大事にしていかなければならないので、全国的に議論をやらうと言っているが、なかなかスピードが感じられない。今やっていることを変えるということは不安もあり、心配される方も多いと思うので、丁寧に取り組んでいかなければならない。

働き方改革、小学校の午前中40分5時間授業の実現、部活動をどのようにこれから進めていくのか、大きくこの3点になると思う。これらをこれから進めていくにあたり、市長の御支援、御協力を賜りたい。現場の先生方の御意見もしっかりと聞いた上で、急がなければならないが、急ぎ過ぎずに丁寧に、バランスをしっかりと考えることが大変重要だと思っている。

●市長

先生方が子どもと向き合う時間、これをしっかりと取ることが子どもを育てることに絶対必要である。そのためには、それ以外のところを出来るだけ工夫して、先生方が子どもと向き合うことに専念できるような体制をしっかりと取っていくことが大事である。ウェルビーイングという言葉もあったが、先生方の働き方改革に大きくつながると改めて感じた。その中で、多様な人材活用、人材確保、人材育成の体制づくり、これについて、国もようやく大きな課題と捉えて、概算要求でも、スクールサポートスタッフ、学習指導員、教頭マネジメント支援員等、新たな政策を今打ち出そうとしている。国、県、市それぞれの役割分担をしっかりと捉えながら、連携してスタッフを確保し、ICTの利用をよりシステムの合理化できるところは合理化する、そういった政策を組み合わせる進めていかなければならないと思っている。各小中学校の現場の声を教育委員会事務局として、しっかりと捉えて、一つの目的に向かって進む形を取っていただきたい。草津市の教育が先生方にとっても、子どもたちにとっても、全国でも素晴らしい誇れる教育になるようにしていきたい。

3. 閉会

- 閉会に当たり、市長より挨拶